

私から始まる大きな一歩

和歌山県立古佐田丘中学校 3年 山中 透子

私には2歳年上の姉がいる。幼いころから姉のお下がりの服を着ることが多かった。学校の制服や体操服も、もちろんそうだ。時々「お下がりは嫌だな」と思うことがある。新しい服をいっぱい買えたら嬉しいし、買い物をすることも大好きだ。しかし、そんな私の考えはある衝撃的なニュースを見て変わった。

みなさんは、「衣類の墓場」を知っているだろうか。衣類の墓場というのは、大量の古着や廃棄された衣類が不法に投棄され、山のように積み上げられている場所を指す言葉だ。私は、この言葉を南米チリで廃棄された衣類の山が、深刻な環境汚染を引き起こしているというニュースを見たときに知った。私はその光景に言葉を失った。私は普段、小さくなって着られなくなった服は従妹に譲り、それ以外のものはゴミとして捨てている。世の中には、服のリサイクル活動があることも知っている。だから、まさか衣類が自然豊かな土地に大量に捨てられていると考えたこともなかった。そこで、どうして衣類の墓場が存在するのかを調べてみることにした。

衣類の大量廃棄には、ファストファッションが大きく関係していた。ファストファッションは、安くて、すぐ買えて、おしゃれなことから特に若い世代に人気がある。ファストファッションは大量の衣類を生産するが、その多くが売れ残ってしまう。むしろ、売れ残る量をわざと生産しているのだ。売れ残った衣類は、倉庫で管理するよりも安く済むために廃棄される。売れ残りの衣類は、南米のチリなどの国々に、古着として輸出される。しかし、そこでも買い手がつかずに廃棄される衣類の数は、年々増加している。その数はなんと、毎秒トラック1台分にもものぼる。それは、ファストファッションは価格や流行を優先して造られ、品質が悪いからだ。廃棄された衣類は多すぎて焼却できず、最終

的には砂漠などに投棄される。これが衣類の墓場だ。

しかし、ファストファッションが引き起こす問題はそれだけではない。まず、これらの衣類を安く製造するため、労働者は低賃金で長時間の労働を強いられている。さらに、有害な化学染料が使われ、工場からの排水が海を汚染している。つまり、安くてかわいいと思って気軽に買った服の裏には、私たちが大切にすべき人権と環境保護が犠牲になっていた。この事実を知ったとき、私はとても悲しくなった。実際、私も同じような服を何着も買ったり、買ったのに全く着ていなかったりする服が手元にある。残念だが、私もまた、衣類の墓場を造っているファストファッション文化の一人だったのだ。みなさんも家の引き出しを覗いてみてほしい。きっと私と同じではないだろうか。私はこの事実を知ってから、「お下がりも悪くないな」と自然に思うようになった。実際に、お下がりの服の殆どはきれいで、まだまだ着続けることができるものばかりだ。

先日、地元のお寺で姉の部活動の発表会があった。姉は邦楽部という箏を演奏する部活動に入っている。いつもは制服を着て、箏を弾いているが、今回は着物を着ることになった。姉が着たのは祖母のお下がりだった。祖母のものということは50年ほど前の着物である。しかし、本番では他の着物に負けることなく、姉の黄色の着物は輝いていた。服を譲り渡すということは素晴らしいことだと改めて感じた。しかし、すべての服が着物と同じ運命を辿るわけではなく、ほとんどの衣類は簡単に捨てられているという現実を忘れてはいけない。私たち消費者は、適切な量の服を買い、大切に扱うべきだ。安くて流行の服をたくさん買って得られる満足感は一瞬で、環境汚染や人権侵害は一時的な問題では決してない。だから、このメッセージを多くの人に伝え、ファストファッション問題に目を向けてもらうことが、私にできる問題解決への大きな第一歩だと思う。私たち一人ひとりの小さな努力が、いつか世界を変えるほどの大きな力になるはずだ。